

平成27年度 第2回富士見市総合計画審議会会議録

日 時	平成28年3月16日(水)			開 会 午後 7時00分 閉 会 午後10時05分
場 所	市長公室	出席者数	委員定数12名中 出席者12名	
出席者	委 員	小山会長、岩田副会長、臼杵委員、大久保委員、大曾根委員、加治委員、金子委員、高橋委員、三宅委員、森川委員、守山委員、吉田委員		
	事 務 局	島田総合政策部長、山口教育部長、和田子ども未来部副部長、久米原健康福祉部副部長、木村教育委員会副部長 【事務局職員】 水口政策企画課長、磯谷政策企画課副課長、平政策企画課主査、荒田政策企画課主査、高野政策企画課主任		
配付資料	第5次基本構想・中期基本計画進捗状況等の概要「第1章・第2章」			
公開・非公開	公開（傍聴 0名）			

内 容

1 開会 政策企画課長

2 会長あいさつ 小山会長

3 議事

(1) 資料及び進め方について 事務局より説明

(2) 中期基本計画第1章の進捗状況・課題等の確認・検討 ・資料に基づき、事務局から節ごとに説明

○ 質疑応答

< 1 節 子育て支援の充実 >

委 員：前回の市長のあいさつで知ったのだが、子どもを産みたい街ランキングで埼玉の中で2位と聞いたが、その要因について教えてほしい。

庁内委員：民間の無料雑誌に掲載されているもので、公園の数など数値化してランキング付けしているの、要因として、他市よりそれらの数値が良いと認識している。魅力についてのPRが課題であると考えており、その辺りはこの後の情報発信の分野で議論いただきたい。

委 員：(8)の児童相談の充実だが、富士見市は、子育てに関する相談窓口はたくさんあると思うが、どこに相談していいか分かりにくい。志木市のようにひと目でわかる冊子などを作ってほしい。また、子育てに関して公園の話が出てきたが、保護者としては、その公園のトイレの清潔さやコンビニが近くにあるなどの情報を欲しがっている。そういう細かい所も提供していくべきだと思う。

庁内委員：市民意識調査では、子育てに関しての不満の理由に、情報が少ないという回答が多いことから、この3月にポケットサイズのガイドブックをリニューアルした。ぜひこのガイドブックを広めていただければと考えている。

委 員：公園などは整備するだけでなく、利用率が上がるようにフォローしていくことが大切ではないか。

委 員：町会から推薦している母子保健推進員と行政との連携はどうなっているのか。

庁内委員：推計をもとに町会から2、3名程度の推薦をいただいて委嘱している。乳児のいる家庭を訪問してもらい相談などを行っている。地域ごとに母子保健推進員同士で連携を取れる体制になっている。訪問時の相談などにより個別の対応が必要と思われるケースなどは、健康増進センターに報告していただいたうえで保健師が訪問して対応しており、必要に応じて他の機関とも連携している。

委 員：子どもの貧困対策についてはどう対応しているのか。

庁内委員：平成28年度に実態調査と計画策定を行う予算を提案している。

委 員：公立保育所と民間保育園で環境の違いがあると思うがどうなのか。公立保育所は古い施設が多く、建て替えや人員体制などはどうなっているか。

庁内委員：建設に関してはコストを含め検討すべき事項である。また、就学前の母親の就労が増えている中、保育所の入所申請は増加しているのが現状である。朝早くから夕方まで長時間の保育となるので、現実的には正規職員以外に非常勤職員の活用も必要となる。これは民間保育園も同じ状況だと思う。

委員：放課後児童クラブの指導員の賃金は適正か。

庁内委員：保育所と同様に母親の就労率が上がっているのに、こちらも入所希望者は増加しているが、指導員の処遇改善も行われている。

< 2 節 子どもの教育の充実 >

委員：学力の向上だが、埼玉県は全国学力テストで41位であり、富士見市は県内でも低い順位だったと思う。また、学校給食については、ちょっと前だが給食費に200万円以上の未納があると聞いている。この状況で評価がAやBばかりというのはどうなのかと思う。

庁内委員：全国学力テストで低い状況は把握している。ただし、出発点からどこまで伸びているかも加味して評価は考えている。埼玉県は独自に学力テストを行っており、小学校4～6年生、中学校1年～3年生と調査している。個別にみると県平均を下回るものもあるが、全体として富士見市は県の上位に位置している。学校給食については、提供する給食の内容と未納問題を一体として見ていないので内容や運営の面では高い評価をしている。

委員：私案だが、児童手当を廃止して給食費を無料にすれば未納問題もなくなるのではないか。

委員：中1ギャップという言葉はいつ頃から使われ始めたのか。

庁内委員：10年くらい前からだと思われる。年間30日を超える欠席があると不登校となるが、全国的に小学校を卒業し中学1年生になると飛躍的に増えている傾向が分かりこの言葉が出てきた。小学校の担任制から中学校の教科ごとに教師が変わることや部活動による先輩と後輩の関係など、環境が大きく変わることが原因と考えられている。富士見市では、小学校と中学校の一体化が重要と考え、近隣の学校でお互いに教諭が行き来し、児童に対し中学校に進学しても環境の変化を少なくする努力や教諭間での小学校と中学校の違いを認め合うことでのギャップ解消に努めている。

委員：それでもこの言葉がなくなっていないのは、取り組み方に問題があるのではないかと感じてしまう。

委員：しつけという言葉がこの計画には出ていないが、市としてどう考えているのか。

庁内委員：しつけの定義が曖昧なところもあるが、基本的には家庭で行うものとの考えで、学校では集団生活での規律を教えている。それでも不足する部分はあると思うので、5daysチャレンジというものを作成して、基本的な生活を自分でチェックしてもらうなどの取り組みは行っている。

委員：学校運営支援者協議会や社会福祉協議会の部会、青少年育成市民会議など、富士見市は子どもに対する関わりが手厚く、いろいろな組織がある。このように網の目ようにたくさんあるのはいいことであると思う。道徳について教えてあ

げることが、大人たちの責任であると思う。

庁内委員：道徳を教えるとともに豊かな人間関係の形成が必要であると考えている。

委員：教員の研修が項目としてあるが、過重労働になっているのではないか。私案だが、学校のプールは限られた期間しか使用しないので、プールを全てやめてしまい、民間のプールを使用して水泳指導まで委託すれば、費用の削減と教員の負担軽減が図られるのではないか。

委員：定住者の外国人の教育では高校受験が問題になっている。私達のNPO法人で高校受験の手助けをしているが、生徒が年々増加しており厳しい状況になってきている。義務教育ではないが、そういう狭間にある子どもがいることを見て欲しい。

委員：学校に戦争体験を話しに行っているが、生きる力を育むことが大事である。

< 3 節 青少年の健全育成支援 >

委員：ららぽーとができて、青少年にいろいろと影響を与えるのではないかと懸念していたが、問題はないのか。

庁内委員：ららぽーとができることの影響については、子どもに関する様々な機関が参加している青少年問題協議会という組織の中で、オープン前から協議していた事項である。具体的な対策として、青少年育成推進員の方が夏休みや冬休みに見回りを実施するなど地域の大人たちが見守る活動を行っている。

委員：町会長連合会の中で青少年育成市民会議への活動に理解を示してくれるところが多く、たくさんの協賛金が集まった。その協賛金の使途を明確にして青少年のために有効に活用してほしい。

庁内委員：青少年育成市民会議の中で、青少年のためにどう活かすかが大切であると認識している。

委員：ピアザ☆ふじみなど、名称に☆マークが入っているが何か決まりなどあるのか。

庁内委員：キラリ☆ふじみに代表されるように、市民に関心を持ってもらえる愛称として、第5次基本構想にある「キラリとかがやく」というメッセージ的な思いもある。

委員：地域子ども教室でボランティアが減っているとのことでB評価だが、そもそもボランティアにすべて頼っている運営体制がどうなのか。ボランティアが少ないことで事業が厳しいなら体制自体を見直すなど考えるべきではないか。

庁内委員：他の自治体では民間やNPOに委託しているところもあるが、富士見市としてのこの事業の目的は、地域の学校は地域で作るという観点で事業を推進している。その観点でボランティア活動を中心に運営体制をとってもらっている。

委員：そういう考え方で取り組んでいることは知らなかった。それなら趣旨は分かるが、子ども教室、学校応援団やスクールガードなどいろいろな団体があるが、どのようにつながっているのかがわかりにくい。

(3) 中期基本計画第3章の進捗状況・課題等の確認・検討

< 1 節 健康づくりの推進 >

委員：がん検診の目標値だが、現状から見るとずいぶん高いが適正なのか。ふじみパ

ワーアップ体操のリーダー講習会で歯の健康が大切であることを学んだが、非常にためになることが多いので、ぜひ広めて欲しい。また、体操を通じた介護予防だけでなく、元気で病院に行かなくなり医療費削減にもつながると思う。

庁内委員：がん検診の目標値はご指摘の通りかなり高い数字であるが、国が示した数値であり、市としてもその数値を参考にせざるを得ないところもある。胃がん検診は現状で低い数値であるが、来年度から内視鏡での検査も受診率に認められるなど国の方針も変更される。内視鏡検査についての対応を医師会と協議していくが、こういう小さな改善を積み重ねて受診率の向上につなげていきたい。健康増進センターの大きな取り組みとして、疾病予防と介護予防があげられる。ふじみパワーアップ体操のリーダー養成は、受講した方は地域で活動していただいているが、予防だけでなく地域のつながりの強化も期待している。歯科口腔については計画に基づき、胎児の段階から高齢者まで、年齢に応じたライフステージごとの目標があるので、その達成を目指して取り組んで行く。

委員：歯の健康診断はないのか。

庁内委員：30歳以上の方を対象に年1回、500円で歯科健診を行っている。今年から妊産婦も対象となり、無料で受診できる。PR不足で申し訳ないが、ご近所で妊産婦の方がいたらお知らせしてほしい。

委員：ふじみパワーアップ体操が地域で続くことはいいことだと思うので、リーダー養成の年齢層も考えてほしい。

庁内委員：リーダーの方は自覚を持ってやっけていただいている。健康増進センターとしてもリーダーのレベルアップ講習の開催や、地域で継続してもらうためリーダーへのフォローも行っている。

委員：ららぽーとの開業により不特定多数の人が富士見市に訪れている。感染症対策はどうなっているのか。

庁内委員：人から人へと感染するものを重大な問題と考えている。新型インフルエンザ対策行動計画など感染症対策は策定している。

委員：子どもの虐待が歯科検診で見つかることもあると言われている。学校歯科健診と連携しているのか。

庁内委員：学校には担当の校医がおり、定期的に歯科健診を行い、虐待の疑いなどが発見されれば各機関と連携している。

< 2節 地域医療体制の充実 >

委員：提案だが、AEDを設置するコンビニに対して補助をしてはどうか。

庁内委員：提案として承る。

< 3節 地域福祉の充実 >

委員：防災訓練で要援護者のリストをもらおうとしたら、個人情報があるので町会長までと言われているがどうなのか。

委員：要援護者登録制度だが、班長に民生委員と一緒に回ってもらった。元気なのに登録した方がいるなどいろいろ実態が把握できた。災害の時は、まずは自分の

身を守り、次に家族の心配をして、その次に要援護者の所へ行くと決めている。

委員：要援護者は個人からの申請がないとできない。中には遠慮して本当に必要な方が申請していない現状もある。

委員：リストの扱いなど徹底していない。災害の時は個人情報より大事なものがあると思うので、防災訓練の時にも使えるようにしてほしい。

< 4 節 高齢者福祉の充実 >

委員：特別養護老人ホームは不足していないのか。

庁内委員：計画では地域密着の施設を支援するものになっている。原則、富士見市の方が入居できるので支援する意味はあると考える。

委員：特別養護老人ホームを建設するにあたって条件や規制などがあるのか。

庁内委員：需要を推計しているが、介護保険の運営と関わる問題である。現在は施設中心から在宅を目指すようにしているが、デイサービスやショートステイのサービスもある施設も必要である。在宅生活を推進していくには、さらに医療の充実も必要であり、イムス富士見総合病院にも協力してもらっている。

< 5 節 障がい者福祉の充実 >

委員：みずほ学園で支援を依頼したら、希望者が多いので週4日通園を週3日に減らされた方の相談を受けた。それ以外の週2日はどうするのかと聞いたら、有料の一時保育などを紹介された。そもそも障がいのある児童がいる家庭では、働くのが難しいので保育所に入れたい事情もある。必要な家庭があるのに、療育支援の体制整備が次期課題というのはどうなのか。

庁内委員：地域の療育事業が拡大している中、希望者が増加している現状は認識している。

委員：障がい者の「がい」が漢字だったり平仮名だったりとか何か決まりはあるのか。

庁内委員：基本は平仮名が原則だが、法律上で漢字を使っている場合は漢字を使っている。

(4) 次回日程について

3月25日(金) 市長公室、4月13日(水) 市長公室

資料については、後日配布する。

4 閉会 岩田副会長